

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19590657

研究課題名（和文）触覚を活用した対話型の生活と健康の調査法；開発と応用

研究課題名（英文）Participatory inquiry method of life and health
by the use of tactile sense; development and application

研究代表者

守山 正樹（MORIYAMA MASAKI）

福岡大学・医学部・教授

研究者番号：10145229

研究代表者の専門分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：健康教育、健康管理

1. 研究計画の概要

人生途中で視覚を失うと、人は通常の生活が出来なくなる。しかしその状態でも、試みに手で周囲の物品に触れると、大概の日用品は触れた瞬間にそれが何かを認識できる。この現象を活用し、触覚を用いた生活と健康のバリアフリー調査法開発を行う。

(1)生活や健康に関するキーワードを手指の触覚から想起する触知実体を開発する。

(2)生活や健康に関する触知実体を手の触覚を頼りに配置する触知座標面を開発する。

(3)上記の触知実体と触知化座標面を組み合わせ、触覚から生活と健康の全体像を描く触知マップ作成手順を開発する。

(4)中学生を対象に触知マップの実用性を検証する。

(5)視覚障害者を対象に触知マップの実用性を検証する。

(6)視覚と聴覚の重複障害者（盲ろう者）を対象に触知マップの実用性を検証する。

2. 研究の進捗状況

(1)触知実体の開発；生活習慣の特徴づけに関連した言葉は、最低5ワードがあると、意味ある想起が開始されることが確認された。普遍的な5ワードが存在するのではなく、対象者の属性で異なる。沖縄の後期高齢者では、「海に行く」など自然環境との触れあいに関するワードを含める必要性が指摘された。小中学生の場合、学校生活に関連した触知実体の重要性が指摘され、学校の机上で使う物品の実例が得られた。視覚障害者・盲ろう者では、食事・外出・コミュニケーションに用いる物品の重要性が指摘され、対応する実例が得られた。

(2)触知座標面の開発；対象者に小型ホワイトボードを渡し、上記で選定した触知実体を、触覚を頼りにボード上に自由に配置してもらい試行を続け、最適な座標面の検討を行った。A5サイズが分かりやすく、触知線を設置しなくても、物体の配置が円滑に進むことが確認された。

(3)触知マップ作成手順の開発；触覚だけからマップの作成を円滑に行うために、対象者には、マッピングに使用する触知実体に繰り返し触れてもらい、記憶してもらう必要が指摘された。一方、身近な物品の場合、記憶する作業は何ら困難を伴うものでなく、作業自体はむしろ探索的で楽しいものであることが判明した。配列手順としては、第一段階として触知実体の横一列の配列、第二段階として縦方向への展開を、採用した。

(4)中学生での検証；U中学校2年生100名を対象として、検証した。

(5)視覚障害者での検証；福島と福岡に在住の視覚障害者10名を対象に検証した。

(6)重複障害者での検証；福島に在住の重複障害者5名を対象に検証した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

特に昨年度はインフルエンザの流行が関係して、中学生および障害者への調査に遅れが生じたが、必要なデータはほぼ得られ、解析もおおむね順調に進行中である。

4. 今後の研究の推進方策

既に主要なデータは得られているが、触知マップ作成に関連したビデオ映像などについては、まだ分析が十分とは言えない。時間的

な制約を考慮しながら、量的な分析だけでなく、質的な分析を推進する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 守山正樹、触覚を介した生活調査法の開発、民族衛生、査読有り、74 巻、178-191 頁、2008 年

② 守山正樹、「食の安全」を子どもたちはどう考えているか、七隈の杜、査読無し、5 巻、20-27 頁、2008 年

[学会発表] (計 5 件)

① Moriyama M、Discovering Daily Life Uniqueness Regardless of Sensory Impairment Status、The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education、July 19, 2009、幕張メッセ国際会議場 (千葉県)

② Moriyama M、Sensory Awakening as a New Approach to Health Promotion in Asian-Pacific Societies、The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education、July 18, 2009、幕張メッセ国際会議場 (千葉県)

③ 守山正樹、体験／経験的な学習の効果を評価する試み、日本民族衛生学会第 73 回総会、2008 年 10 月 26 日、横浜

④ Moriyama M、From WIFY to WIMY: Participatory Learning Model and its Evaluation、International Conference on Life Education and Health Promotion、2008 年 7 月 15 日、Taipei, Taiwan

⑤ 守山正樹、ヘルスプロモーションとしての視覚障害体験、日本健康教育学会第 17 回大会、2008 年 6 月 22 日、東京

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]